

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

西船場小	学校	児童数	72
------	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
本校男子	15.76	19.89	26.54	39.19	50.08	9.73	150.05	21.84	47.30
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
本校女子	14.73	18.82	32.38	37.67	40.21	10.09	141.37	13.41	48.30
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

本校の体力合計点は男子47.3点、女子48.3点で、大阪市(男子51.54点・女子52.58点)、全国(男子53.02点・女子53.97点)と比べるとなお向上の余地があるものの、種目別には明確な伸びが見られ、特に一部種目で全国や大阪市を上回る結果が示されたことは大きな成果である。男子では20mシャトルランが50.08回と、大阪市(45.42回)、全国(47.94回)を上回り、日頃の持久走や体力づくりの取組が確実に自動の力として定着していることが窺える。女子においても同種目で40.21回と、大阪市(35.15回)、全国(36.85回)を超える結果となっており、持久力の分野では学校の取組が着実に成果を挙げていると捉えられる。上体起こしでは男子19.89回、女子18.82回と全国平均(男子19.46回・女子18.36回)を上回る結果で、体幹の安定性を高める活動が実を結び始めている。立ち幅跳びや投力でも全国とほぼ同水準に達しており、基礎的な運動能力は全体として堅実に育っていると言える。一方、柔軟性については男子26.54cm、女子32.38cmで全国平均を下回り、今後のさらなる成長に向けた課題として明確になった。運動への意識と習慣の面では、男子の「運動・スポーツが好き・やや好き」の回答が93.2%と非常に高く、前向きな意欲が全体の体力向上を支えている。女子は78.2%で全国(85.7%)よりやや低いものの、「やや好き」の割合が高く、ポジティブな意識の芽が確実に育ってきている点が注目される。週あたり運動時間では女子の「60分未満」が18.2%と依然として課題があるものの、大阪市(19.9%)より低く、改善の兆しが見られる点は大きな前進である。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校では昨年度、課題として挙げられた柔軟性と持久力を中心に指導改善を進めてきた。その中で特に持久力の向上が顕著であり、男子の20mシャトルラン50.08回、女子40.21回はいずれも大阪市や全国を上回る結果となった。これは、体育授業での持久走やリズム運動、継続的な体力づくりの活動が効果的に機能し、児童の体力向上に結びついたものと考えられる。また、上体起こしでは男女ともに全国平均を超えて、体幹を中心とした基礎的な身体づくりが安定して行われていることが窺える。さらに、男子の運動への肯定感は「好き・やや好き」が93.2%と高く、週60分以上の運動実施率も全国水準以上で定着しており、運動を楽しむ文化が学級全体に広がっている。女子についても「やや好き」の比率が高いことは、今後「好き」へと転じていく可能性を十分に秘めており、ポジティブな基盤が整いつつあると捉えることができる。また、女子の「週60分未満」の割合が大阪市より低い点は、学校の働きかけや家庭との連携の効果が表れつつある証といえる。一方で、柔軟性は男女ともにまだ伸びしろが大きい。特に女子は運動への自信が十分でない傾向が見られ、楽しさや達成感を味わえる機会をより意図的に設定する必要がある。今後は、日常的に続けやすいストレッチ習慣の定着や、友達と協力して楽しめる選択性のある運動プログラムの充実を図りたい。また、成功体験を積み重ねられる仕組み(チャレンジカードやペア活動など)を取り入れることで、女子の意欲向上と体力向上の双方にアプローチしていく。総合的には、昨年度の取組の成果が確実に表れつつあり、特に持久力の向上は大きな前進である。今後はその成果を維持しつつ、柔軟性と女子の運動習慣の改善を重点として取り組むことで、さらなる体力向上が期待される。